



# 病虫害発生予察注意報 第2号

## 県下全域でクモヘリカメムシ， 県南地域で イネカメムシの発生が多くなっています！

～斑点米発生防止には乳熟期の防除が重要です！～

### [発表の内容]

作物名 : 水稻

病虫害名 : クモヘリカメムシ, イネカメムシ

発生量 : 多い

発生地域 : 県下全域 (クモヘリカメムシ), 県南地域 (イネカメムシ)

### [発表の根拠]

- ① 7月下旬現在，水田内におけるクモヘリカメムシ（写真1，2）のすくい取り虫数（全県）は平年よりやや多い～多く，発生地点率は平年より高い（表1）。
- ② 地域別でみたクモヘリカメムシのすくい取り虫数は，県央地域で平年より多く，県北・県西地域で平年よりやや多い。発生地点率は県北地域で平年より高く，県央・県西地域で平年よりやや高い（表1）。
- ③ 7月下旬現在，県南地域でイネカメムシ（写真3）の発生がみられ，水田内におけるすくい取り虫数は，平年よりやや多い～多い（表2）。
- ④ 気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

表1 水田内におけるクモヘリカメムシの地域別生息状況(令和元年7月下旬調査)

地域	調査 地点数	平均すくい取り虫数(頭/10回振り)			発生地点率(%)		
		本年	平年 <sup>1)</sup>	順位 <sup>2)</sup>	本年	平年 <sup>1)</sup>	順位 <sup>2)</sup>
県北	8	1.3	0.5	3	38	16	1
県央	15	1.0	0.4	1	27	15	1-3
鹿行	6	0.1	0.4	4-8	17	13	2-8
県南	19	0.1	0.1	4	5	2	2-4
県西	9	0.3	0.2	3	22	8	1-2
全県	57	0.5	0.3	2	19	10	1

表2 水田内におけるイネカメムシの地域別生息状況(令和元年7月下旬調査)

地域	調査 地点数	平均すくい取り虫数(頭/10回振り)			発生地点率(%)		
		本年	平年 <sup>1)</sup>	順位 <sup>2)</sup>	本年	平年 <sup>1)</sup>	順位 <sup>2)</sup>
県北	8	0	0	1-11	0	0	1-11
県央	15	0	0.003	2-11	0	1	2-11
鹿行	6	0	0.01	2-11	0	2	2-11
県南	19	0.16	0.07	2	11	4	1-3
県西	9	0	0	1-11	0	0	1-11
全県	57	0.05	0.02	2	4	2	2-3

1) 平年:平成21～30年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位:本年を含む過去11年間における本年値の順位を示す(3-4は3位から4位まで同じ数値であることを表す)



写真1 クモヘリカメムシ（成虫）

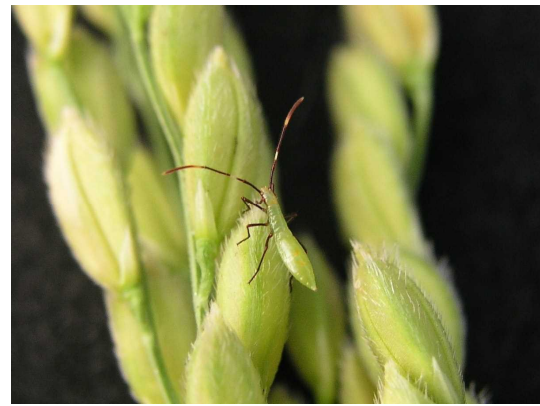


写真2 クモヘリカメムシ（幼虫）



写真3 イネカメムシ（成虫）

### [防除対策]

- ① 成虫を対象とした防除適期は穂揃期である。穂揃期に成虫を確認した場合は防除を実施する。
- ② 幼虫を対象とした防除適期は、出穂後10～15日頃（乳熟期）である。乳熟期以降の幼虫密度が高いと斑点米の発生量が多くなる<sup>※</sup>。すでに防除を実施した水田であっても、その後幼虫がふ化したり新成虫が再飛来したりするので、発生を認めた場合は表3を参考にして追加防除を実施する。
- ③ ふ化直後の幼虫は非常に小さいため、発生していても気がつかない場合がある。出穂期に成虫を確認した水田などではよく観察する。
- ④ 収穫の遅い水田では8月中旬以降に新成虫の飛来により集中的に被害を受けることがあるので注意する。
- ⑤ 防除の際には、収穫前日数や使用回数及び周辺作物（特に早生品種を作付している水田がある場合）への飛散に注意する。

※ 乳熟期から糊熟期に捕虫網（直径36cm）を用いた20回振りすくい取り調査で幼虫が3頭以上確認される水田では、玄米等級が2等以下に等級落ちする確率が高い。

表3 稲のカメムシ類に登録のある主な薬剤 (令和元年7月24日現在)

薬剤名	使用方法	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	有効成分	IRACコード <sup>1)</sup>
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	散布	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	4A
キラップフロアブル	散布	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	2回以内	エチプロール	2B
MR. ジョーカーEW	散布	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内	シラフルオフェン	3A

1) 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。

※ 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認する。

※ 育苗箱施用剤による防除、航空防除等を行っている場合は、本剤の使用回数ならびに有効成分の総使用回数に十分注意する。

※ ミツバチ被害軽減のため、ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前8時～12時まで）の農薬の散布をさける。